

## 第4回 養父市振興計画審議会 議事要旨

日 時 令和3年7月9日(金) 13時30分～16時30分  
場 所 八鹿公民館 2F 23号室  
出席者 委 員 畑正夫(会長)、福井啓子(副会長)、秋山卓寛、片岡高市(答申のみ)、  
小泉一輝、佐々木秀行(答申のみ)、大封健太、栃尾英一、中島高幸、  
松田佳苗、宮本早紀、宮本裕美  
事務局 経営政策課 岡山慎、渡邊幸  
欠席者等 委 員 上垣秀和、田淵和香菜、西谷秀和、村上裕樹

### I. 進行状況等

#### 1. 開会

#### 2. 議題等

(1) 答申案の意見の確認

(2) 計画修正案の意見の確認

#### 3. その他

#### 4. 閉会

### II. 議事等

事務局より、出欠者等に関する確認等を行った後に答申案および計画修正案に関する意見交換を行った。主なやりとりは以下のとおり。

(会長) 今回は4回目の審議会ということで、計画としてはまとまってきたように感じる。この計画は養父市の職員の若い二人が養父市の将来について中心となって考えてきた。そのことについて、これまでにはない何かが生まれる可能性を秘めていると感じている。本日はこの審議会の終了後に答申をすることになっているが、答申はあくまでも紙の上の話でもあるため、今後、どんなふうに養父市を変えていくかという取組がとても大事になってくる。ようやくスタートラインに立ったということだと思う。答申については、どんな議論をしたかを残しておくことが非常に大事だと考えているため、この審議会でも議論した委員のみなさまのご意見を中に盛り込むようにしたものである。それを基にして計画本体の修正作業をしていただいている。本日はもう少しこうしたら良くなるなどの点についてご意見いただければと考えている。本日もよろしくお願いいたします。

(事務局) 答申案、計画修正案についてあらかじめ共有させていただいているが、これまでの審議会のご意見を踏まえている点等について改めて説明申し上げる。「居空間」についてはこれまでの審議会のなかで「抽象的」、「イメージしにくい」というご指摘もいただいたため、左のページに「居空間に込めた思い」、「居空間構想を構成する

考え方」を入れている。これは、審議会のなかで強調すべきご意見があったことを踏まえ、まずは目に触れていただきたいという思いを込めて記載している。内容について、まずは「挑戦できる」まちということで、様々な人が創造的に様々な活動に挑戦している姿を思い描ける内容としている。それに加え、挑戦することが強制ということではないという意味合いを表すため、一人ひとりが参加しやすい活動が市内にたくさん生まれている姿を思い描ける内容としている。また、「次世代へつなぐ」持続的な養父市づくりを行っていくために、ということで、この計画がこれから始まること、また、2050年に向けてこの10年間の取組をみんなで考えましようという位置づけを伝えようとしている。また、前回の審議会でのご議論にもあったように、子どもたちに向けてどうメッセージを伝えていくかが大切な視点であると受け止めている。そのあたりを強調したいと考え、修正した。その下の「居空間を構成する考え方」には、人口に対する考え方を明確にすべきというご意見をふまえ、今後取り組む姿勢・考え方として記載している。養父市の人口減少は昭和30年代から進んでおり、今に始まったことではない。第1期の地方創生の取り組みとして重点的に取り組んできたが短期的な取組では解決できないことを身にしみている。今後もしっかりと取り組んでいかなければならないということ。それでもやはり、人口減少が進んでいくことが想定されているため、「つながり人口」と表現し、市内の住民に留まらないまちづくりに関わる人口を増やす仕組み等を築いていくことを目指したいと考えている。その下に「無限に広がる空間のなかでつながるという世界観」と書いている。デジタルだけではないが、デジタルも上手く使いながら創造的なまちづくりを行うこと、また、「空間」という概念を用いながら、際(きわ)の無い社会の中で多様なつながりが生まれていることを描いている。そうした空間のなかで、居心地の良い空間をつくっていきたいということで「居空間」としている。11ページでは、人口の考え方について記載している。ここでは、先ほども触れましたが、この地域に実際に住む人が減っていったとしても、持続的な養父市を創造するために、養父市と関わる「つながり市民」の力を借りながらまちづくりを進めていくという考え方を記載している。次のページには展開イメージを図化したものを記載している。そして、13ページ、14ページには、本計画が掲げる将来像を記載している。将来像は、「豊かで持続可能なスマートヴィレッジの共創」としている。下記に説明文として、これまでの審議会等でのご意見をふまえ、心の豊かさを大切にすることや、いつまでも住み続けられる、住み続けたいと思える地域を築いていかなければならないこと、賢くデジタルを活用していくこと、養父市らしい・輝かしい中山間地を築いていくことを目指す内容としている。それを実現するための柱として、右側のページの「市民」、「地域」、「公共」の3本柱をもとに体系的に整理をしており、横断的な行動指針のなかでSDGsについても推進していくこととしている。

また、本日の審議会までにメール等でご意見いただいた点等について説明する。まず、「自分ごと」を「我が事」に変更してはどうか」という点について、「自分ごと」

は、「他人事」に対して、近年使われてる様になっている言葉であり、まちづくりを担う一人ひとりが、まちづくりの主体であることを自覚し、当事者意識をもって行動できることを表す言葉として使用しており、柔らかい表現でもあるため、そのまま使用させていただきたいと考えている。次に「つながり人口は将来的に養父市へ移住する可能性があるから大切なのか、この人たちへのサポートを住民がどのようにどんな形でやればいいのか」という点について、地域の課題が地域の人だけで解決できなくなっているなか、地域の担い手として地域とつながりを持った地域外の人材が地域づくりの担い手となることが期待されている。養父市での特区の取組では、集落と企業とのつながりも生まれている事例がある。そういった事例に限らないが、市内外の人が協働するまちづくりを進め、具体的に支援できる方法を見つけていきたいと考えている。また、「KPIについて」、本計画に記載するKPIは、それぞれの施策の代表的な指標であり、実施計画では、それぞれの事業ごとに個別のKPIを設定することとしている。また、評価検証を行う際には、基本的には代表的な指標に対して評価検証を行うが、併せて市の状況を把握するためにさまざまな指標を提示する。また、「施策と施策が重なる部分もあるのでは」という点について、本計画では「市民」、「地域」、「公共」の3つの柱、視点に分けて体系を整理しているが、それぞれの施策がつながりあって、関係性を持ちながら推進することが大切である。そのため、重なっている部分があることについてはある程度は仕方がないことであると捉えている。

(会長)

事務局の説明に補足的に申し上げると、「自分ごと」という言葉については、この計画の中でも書かれている持続可能な開発目標(SDGs)の議論の中でも「自分ごと」という言葉が使われていることから、一貫性を考えるとこれで良いと考えられる。「つながり」という話においては、多様なつながり方があって良いので、その中で「自分たちのつながる役割を探しましょう」というのが今回の計画としてのメッセージである。また、人口2万人という目標については、これまでの人口概念だけでなく、社会を変えていくということを考えに入れて人口を見ていくと、単なる減少する人口の穴埋めではなく自分たちが新しい社会をつくっていく、極端に言えば、1万人になっても大丈夫なような社会をつくっていくことも心にしまいながら、2万人を目標にしていると理解してよいものとする。KPIについては、事業の中身でもあるため、市民が具体的に何をしようとするのかを考え始めたときにはきっとKPIの中身も変わってくるものである。また、柱立ての重複があることは仕方がないことである。公共と市民と一緒に取り組んでいきましょうということになるわけであるため、重複する部分がでてくることは仕方がない。いまは行政が中心となって計画を作ってきてはいるが、その中で気になっているものを区分けして整理していけばよいと考える。それでは、答申案について、もう少し加えてほしい等の意見もあれば頂きたい。まちづくり計画に対する想いのようなものでも構わない。

(委員)

最初頂いたものよりも分かりやすくなったと感じているが、KPIについて、本当にこの数字で良いのかと感じる。

- (会長) KPI が施策とミスマッチしているものもある。そもそもなぜ KPI が必要なのか。
- (事務局) 本計画は、地方版総合戦略の位置づけを持つ計画である。まち・ひと・しごと創生法のなかでも総合戦略の実施状況に関する客観的な指標を設定しなければならないとされている。
- (会長) 地方創生の取組というのは、国が自治体に対して総合戦略に沿った取組をすれば交付金を出します、というようなお金の話もある。KPI については、計画で記載しているものをだけを取り組むのではないということを書いておき、そのうえで評価の中でも見直していくものだということを書いておかなければならないかもしれない。現在案として出てきているものについても、一つ一つロジックを説明すれば分かるかもしれないが、表面的に施策とミスマッチしているように感じるものもある。
- (委員) もう少しぼかしても良いのでは。
- (会長) ぼかすということではないところが非常に悩ましいところ。本当は抽象的なものになるのかもしれないが、お互いの実践活動等、お互いが協力して学び合っていると思える、というようなことも一つの指標になるかもしれない。それを具体的に表しているデータが残念ながらないのが現状。
- (委員) 私も KPI に違和感がある。施策と KPI の目線が合わないように感じる。事務局が説明されたシンボルという考え方もあるが、そうであったとしても、取り組みをした効果が表れていることがみんなに分かるものでないといけない。そう考えたときに、どれもではあるが、例えば、「UI ターン支援制度を活用した UI ターン者の数」についても支援制度を利用しないとダメなのか。「市が関与した分譲地の区画数」についても、それがどうした、と感じる。できれば、「市民の労働参加率」であったり、「一人当たりの付加価値額」等が良いのでは。観光分野であれば、「観光入込客数」だけでなく、「観光消費額」も併せて設定するとか。KPI については分野も多岐にわたるため目線が合わない部分も出てくるのは仕方がないかもしれないが、そこを合わせるように検討していただきたい。
- (事務局) 参考にしたい統計データのなかでは 5 年毎にしか分からない指標もあるが、本計画に掲載する KPI については、毎年評価検証を行うため、データを更新できるものでないと設定しづらい部分もある。
- (委員) 私はこの審議会の中でも指標が必要だと言ってきたため、この案を頂いたときに、指標があることは非常に良いことだと感じた。ただ、それぞれの柱の KPI と各施策の KPI がずれてしまっている。見せ方としても、どういうふうに KPI を設定して、どういうふうなことを意味する施策なのかということも表現できるよう、KPI をもう少し説明するか、欄外にしてしまうのか等、少し練っていただいた方が良いのではと感じる。
- (会長) おそらく、柱の KPI と各施策の KPI は合わない、ということになるかもしれない。なぜかと言えば、そのくらい（高い）のことを考えていて、いまやっている事業がこれくらいの（そこまで届いていない）ことをやり続けているとする。そうすると、その間が合わない。事業ベースの指標ではなく、もう少し違う指標をつくってお

かなければならないかもしれない。

(委員) 合わないのであっても、直結するようには見せないといけないのでは。

(委員) 確かに、一足飛びに設定するのは難しいが。

(会長) 現行の取組で、まず始めるべきことを目標として設定し、そのなかで発展させていくような取組を中心として指標を設定すると良いかもしれない。書き方も、「支援制度を活用したUIターン者の数」と書かずに「UIターン者の数」とすれば、具体的に何をどうするのかということについては別に整理すれば良いだけの話になる。書き方を工夫するだけのものもあるが、もっと良いものもつukらないといけない。ここをどんなふうに説明していくかを考えてKPIを設定しないといけない。

(委員) それが大事。KPIは、ここを目指してやっているという部分がメッセージとして出てしまうため、やはりしっかりと考えてつukらないといけない。

(委員) KPIは基本構想、実施計画で出すのではなく、後ろの方で出すのが良いのでは。

(会長) KPIを一覧表にして、基本計画の後に添付するのも一案。

(委員) 見せ方という点については、つながりが少ないように感じる。つながっているように見せるためには、もう少し指標の数を増やしても良いかもしれない。また、各施策についても障がい者の雇用や、医療面の文言が少ないように感じるため、追加していただきたい。

(会長) 当面は現行の事業を有効に活用しつつ、そのうえで年度ごとに積極的な事業展開を図るとして、今後5年間程度を見通すことができるような指標を定めておいて、常に見直しを図るということを計画に書いておくのも一つの案。

(委員) KPIについてはちゃんとつukれば、市民の皆様にもちゃんと伝わるものである。逆に有効にも使えるため、しっかりと考えていただきたい。

(会長) では、答申の中に「KPIの設定についてはもう少し考えるべき」ということを付け加えるのはどうか。その際には「既存の事業にこだわらず」ということも入れておいて、「養父市の将来を考えるための重要な業績になるような指標を、将来的につukる事業も見通しながら考えて欲しい」と書いておく。

(委員) 「観光入込客数」等についても、シンプルで分かりやすい指標であるため、これだったら養父市の観光も進んでいきそうな感じがするため、このような分かりやすい指標が良い。

(会長) 事務局に伺うが、答申を変更させていただいても良いか。

(事務局) はい。本日のご意見を含めたものを答申としたい。答申後はパブリックコメントを実施していくこととなる。パブリックコメントの実施までに、審議会の中でKPIの検討をしっかりと行うことができなかつた点については、事務局の力不足もあり申し訳ない部分でもあるが、パブリックコメントでのご意見等も併せるかたちで、引き続きKPIについては検討することについて了解いただきたい。

(会長) 検討の時間があるということ。KPIというのは、委員の意見を集約すると、「そもそもこのまちづくり計画は養父市と市民が何をしようとしているのかということ」を明らかにする重要な視点である。だからこそ、現行事業という制約から始めない

といけないということはあるものの、将来的に養父市が市民の皆さんと何を始めようとしているのかを明らかにするような指標づくりを目指すべきである」というようなことを答申に書いておくこととする。KPIについては、訳が分からないと言われることもあるかもしれない。意識が変わるまでは養父市のなかでも大変になるかもしれないが、良い事業が出てくれば、と思う。KPIについては以上となるが、その他については如何か。

- (委員) 全体的に文字が多いように感じる。色々な市民の方が読まれると思う。伝えたいことが沢山有るのはもちろんだとは思いますが、イラストを挿入する、文字を減らす等、もう少し工夫が必要かと思う。
- (委員) 概要版を作る予定はあるのか。
- (事務局) 概要版を作成する予定である。
- (会長) 概要版があるのであれば、本編はしっかりと書いておこうというつもりになっているのか。
- (事務局) おっしゃる通り、本編はしっかりと書いていき、概要版として周知用のパンフレットを作成する予定である。
- (委員) 概要版は全戸配布を行っていくのか。やはり市民の皆さんが自主的に動くことが、この計画の目標でもあるため、できれば全戸配布などで周知を行っていただきたい。
- (事務局) 概要版を全戸配布する予定である。
- (会長) 計画の実現のために「動く」ことにつながっていくようなものとするのが大事。わかりやすいものにしていただきたい。
- (事務局) コロナの状況にもよるが、タウンミーティング等の開催が可能であれば、その機会にもしっかりと周知をさせていただきたいと考えている。また、市広報の特集ページや市のホームページへの掲載も行う予定。その他にも、PR 動画の作成も行っており、全体としてわかりやすく伝えていきたいと考えている。
- (委員) 「中山間地域」という言葉が出てきているが、養父市ならではの取り組みにつながるよう、市民全体に浸透するように取り組んでいただきたい。
- (委員) 審議会を通して委員の皆様と共にいいものができたと感じているが、計画を作って終わりではなく、KPIについても5年10年経つと目標と乖離していくと思われる。そのようなときに、冊子に書いている部分を修正していくことは考えておられるのか。
- (事務局) 評価検証を行うなかでアップデートをしていかなければならないと考えている。
- (会長) 地方創生の期間中は1年毎に評価検証を行っていくということ。できれば、将来的には何か大きく変わりそうなものを捉えて、それを補完していくような形で、調査や研究会、勉強会等を開催し、そこから見えてきたものをKPIに組み込んでいくことが望ましい。また、必要に応じてKPIだけでなく、計画の中に入れていくことをやっていかなければならない。
- (委員) 守りに入る行政が多いなか、養父市は「やってみなよ」という後押しをしてくれること、これが養父市の魅力だと感じている。「挑戦できるまち」という輪が広がっ

て欲しいと思っている。冊子について、前から読んでいったときにわくわくするようなページが入った方が読み進めたい。「2050年の養父市」についても市民が共有することとして必要だとは思いますが、「10年後の養父市」がもう少し目立って、行動に移す、挑戦する人が増えることが大切だと思う。

(会長) 見てほしいような図や言葉を、目を引くところとして作っても良いかもしれない。それは概要版の仕事かもしれないが、居空間の絵やそれを生み出す挑戦の姿などを入れ、つかむ部分を作ることが大切かもしれない。

(副会長) やっとすべてが結びついてきたと感じる。演劇や医療の対応に向けてもいろんな団体が動きかけていることを知った。そして点から線へ繋がっていく。本計画の推進においては、私たち個々がつながりの役割を探ることが大切だと思う。そのつながりの役割を探しやすいように市民の皆さんへ提案していけば、もっと結びついていくのではないと思う。これが実現すれば、きっと養父市には多くの人が集まってくると思う。個々の役割を探しやすい目標・提案をして頂けたらと思う。

(会長) つながり人口も一緒になって考えていくためのきっかけとなるような計画になるために、という話で、これは最初のKPIの話とも繋がってくると思う。

(委員) 施策ごとに設定するKPI以外に、計画の数字だけを見たときに出てくる数字が4つしかない。人口と各柱の数値目標。

(会長) 今回の基本構想・基本計画の特徴は、皆さんご承知のとおり、将来の姿から今をどんなふうに変えていこうかということを考えているところにあるため、ずっと10年間今のままの政策が続いているとはあまり考えられないと思う。むしろ、3、4年くらい経てば今とはきっと違う方法でアプローチしている。その時に、考えていたことにたどり着く最適な道を選び直すことができるはず。10年先を目標とする指標に本当に意味があるのか、というところは思うところ。

また、このあと答申後、パブリックコメントの実施期間に委員の皆さんから建設的なアイデアが出てきた際にはどのように対応するのが良いのか。

(事務局) 答申となれば、審議会としては一区切りとなるが、引き続き、ご意見等いただきたい。審議会としての時間が確保できず申し訳ない。

(委員) 「実施計画書」を各部局が作成しながら計画を推進していくこととなると考えるが、部局ごとの考え方に偏りが生じないように推進していただきたい。

(事務局) 休憩を挟み、答申の修正作業を行いたいと考える。

(会長) ご意見等を整理すると、KPIの役割りとしては、一緒に取組をしていくための重要な指標である。そのためには、できるだけ明確に示しておくことが必要。そうしたKPIを作るには、重点的に実施する戦略事業をできるだけ明確にすることが前提になるだろう。市民と共に取り組む計画だからこそ努力すべきだ、という点を答申に記載することとする。他にも何かあればおっしゃっていただきたい。なければ休憩ののちに答申とする。

休憩中に、答申案を加筆・修正した後に、市長への答申書の提出を行った。